

2009年4月23日

プレスリリース

本資料は4月23日にチュ
ーリッヒで発表されたプレ
スリリースの翻訳版です

クレディ・スイス・グループ 2009年第1四半期業績を発表 20億スイス・フラン (CHF) の純利益

- 22.6%と良好な自己資本収益率、低いリスク、さらに強化された資本基盤。第1分類資本比率は14.1% (2009年3月31日現在)
- プライベート・バンキング部門は税引前利益10億CHF、新規純資産114億CHF。世界とスイス国内の両事業で大幅な新規資産獲得
- ウェルス・マネジメントは変化する環境下で成功を収める位置を確保
- インベストメント・バンキング部門は大幅に黒字転換し、税引前利益24億CHF。主な顧客業務で収益と市場シェアを拡大し、良好な資本収益率とリスク減を実現
- 一貫性のある厳格な時価会計方針を採用。商業用モーゲージ担保証券 (CMBS) の14億CHF正味減価償却などを実施
- アセット・マネジメント部門は税引前損失5億CHF。公設市場の低迷によるプライベート・エクイティの未実現損失が主要因。アセットアロケーション、スイス国内、オルタナティブ投資に注力し、当社統合事業モデルとの整合性を強化する戦略を継続

クレディ・スイス・グループは、本日、2009年第1四半期の業績を発表しました。それによると、2009年第1四半期は株主帰属ベースで20億600万CHFの純利益 (前年同期は21億4,800万CHFの純損失) を計上しました。当四半期中核事業の純営業収益は95億5,700万CHF (前年同期の29億2,600万CHF) でした。株主帰属ベースの自己資本収益率は22.6%、1株当たり希釈化純利益率は1.60 CHF でした。

最高経営責任者 (CEO) のブレイディ・ドゥーガンは次のように述べています。「2009年第1四半期の業績を嬉しく思います。他社との差別化を図る事業戦略および低リスクで資本効率が高い堅固な統合事業モデルが優れた収益を生み出すということが、当四半期の業績、特に良好な自己資本収益率によって証明されたと考えています。また、今回の業績はコスト削減や財務基盤の一層の強化など、当社が昨年実施した対策の効果も表しています」。

「ウェルス・マネジメントとスイス国内のコーポレート&リテール・バンキングは、良好な収益力と新規純資産 114 億 CHF を達成し、回復力の強さを示しました。当社は現在、世界市場でのプレゼンス強化および効率的な事業基盤の構築に向けた数年前からの取り組みの収穫を得ているところです。ウェルス・マネジメントは、変化する業界の中で成功することのできる位置を獲得しています。当社は今後も世界およびスイス国内での成長に向けた賢明な投資を継続します」（ドゥーガン）。

「インベストメント・バンキング部門は、リスクの低減と顧客中心で資本効率の高い戦略の実施によって、大幅な黒字に転換しました。事業基盤の整合化によって、持続可能な収益力および良好な資本収益率を実現し、収益の変動を縮小できると考えています。第 1 四半期は、主要な顧客業務で強力な収益の伸びと市場シェアの拡大がありました。同時にこれまで赤字であった事業の再編においても大幅な進展があり、当四半期中に、業務モデルの変更やリスク上限の見直しによって、これらの事業分野でも黒字転換を果たすことができました」（ドゥーガン）。

「クレディ・スイスの強みに対する評価は、既存顧客および見込顧客どちらの間でも高まっており、当社は明らかな優位性を得ています。差別化戦略、健全な財務基盤、政府出資を受けていないこと、強力な資本と流動性、良い位置を確保している各事業、資本効率性に優れた事業モデル、非常に低いリスク。これらによって、クレディ・スイスは信頼できるパートナーとして顧客に選ばれています」（ドゥーガン）。

「当社は、とりわけ業界全体の環境において、当社の見通しについて引き続き楽観的な見方をしています。当社の新しい市場環境に対する慎重なアプローチは今四半期にその効果が示され、今後もそのような方針で経営を継続します。困難な状況が続く場合、引き続きボラティリティと市場の混乱によってマイナスの影響を受ける可能性がありますが、そのような嵐を乗り越え、市場機会が生じた時には良好な業績につながることを確保していると考えています」（ドゥーガン）。

決算ハイライト

単位：百万 CHF	2009 年 第 1 四半期	2008 年 第 4 四半期	2008 年 第 1 四半期	2008 年 第 4 四半期 からの増減率 (%)	2008 年 第 1 四半期 からの増減率 (%)
当期純利益（損失）株主帰属ベース	2,006	(6,024)	(2,148)	-	-
1 株当たり希釈化純利益（損失）（CHF）	1.60	(5.00)	(1.97)	-	-
自己資本収益率 株主帰属ベース（年換算）	22.6%	(62.0)%	(20.8)%	-	-
BIS 第 1 分類資本比率（当期末）	14.1%	13.3%	9.8%	-	-
中核事業¹					
純営業収益	9,557	(1,830)	2,926	-	227
貸倒引当金繰入額	183	486	151	(62)	21
総営業費用	6,320	6,344	5,356	0	18
継続事業からの利益（損失）（税引前）	3,054	(8,660)	(2,581)	-	-

¹ 中核事業は 3 事業部門とコーポレート・センターの業務を含む。ただし大きな経済的利益を有しない少数株主持分に関する利益と費用を除く。

部門別業績

プライベート・バンキング部門

ウェルス・マネジメントとコーポレート&リテール・バンキングからなるプライベート・バンキング部門の2009年第1四半期の税引前利益は9億9,200万CHFで、前年同期を25%下回りました。これは困難な事業環境の影響によるものです。純営業収益は28億7,800万CHF（前年同期比14%減）でした。

ウェルス・マネジメントの2009年第1四半期の税引前利益は6億4,600万CHFで、前年同期を25%下回りました。これは主に収益の低下によるもので、平均預かり運用資産の減少と投資家が慎重な行動を取ったことが影響しています。当四半期の純営業収益は19億2,500万CHFで17%下回りました。これは、経常収益、トランザクション・ベース収益双方の減少によるものです。総営業費用は前年同期比12%減で、これは主に当四半期中の貸倒引当金以外の引当金の回収および手数料関連費用の減少によるものです。2009年第1四半期の税引前利益マージンは33.6%（前年同期は37.2%）でした。平均預かり資産のグロス・マージンは、116 ベーシス・ポイントで、前年同期を若干下回りました。

コーポレート&リテール・バンキングの2009年第1四半期の税引前利益は3億4,600万CHFで、前年同期を25%下回りました。純営業収益は9億5,300万ドルで前年同期比9%減でした。当四半期の貸倒引当金は4,500万CHF（前年同期は900万CHFの正味取崩し）でした。総営業費用は前年同期比4%減となりました。税引前利益マージンは36.3%（前年同期は44.5%）でした。

インベストメント・バンキング部門

インベストメント・バンキング部門の2009年第1四半期の税引前利益は24億1,400万CHF（前年同期は34億2,300万CHFの税引前損失）でした。純営業収益は、前年同期の5億300万CHFのマイナスから大幅に増加し、64億4,200万CHFを計上しました。これは同部門を顧客中心で資本効率の高い事業戦略へと整合する取り組みが大幅に進展したためです。同部門は、各種の主要顧客業務における市場シェアを大幅に拡大し、これらの分野の収益を63億CHFにまで増加することができました。これは、金利および外国為替、米国住宅用モーゲージ担保証券の流通市場でのトレーディング、キャッシュ・エクイティ、プライム・サービス、フローおよびコーポレート・デリバティブ商品などの分野での好調な業績によるものです。

さらに、インベストメント・バンキング部門では、再編対象業務の業績に大幅な改善が見られました。新興市場トレーディング、米国レバレッジド・ファイナンス、株式トレーディング戦略、転換社債などの業務が黒字転換し、今四半期合わせて14億CHFの純営業収益を達成しました。これは業務モデルの変更やリスク使用の見直しによります。

インベストメント・バンキング部門は、撤退を決めた業務で17億CHFの損失を計上しました。これは主に商業用モーゲージ担保証券の正味減価償却14億CHFによるものです。しかし同部門では引き続き部門内のレガシー資産を削減し、撤退業務における資産保有高を2008年第4四半期末に比べさらに31%、2007年第3四半期からの累積ベースで92%それぞれ削減しました。

インベストメント・バンキング部門の純営業収益のうち約 13 億 CHF は、信用スプレッドの縮小、キャッシュと総合証券との間の差の縮小、市場ボラティリティの縮小、転換社債市場の安定化など、2008 年第 4 四半期に比べ市場状況が正常化したことによってもたらされたことと推定しています。同部門の純営業収益はクレディ・スイス社債の時価評価益 3 億 6,500 万 CHF から利益を受けました。

インベストメント・バンキング部門の業績は、従業員報酬以外の費用の減少からも利益を受けました。これらの費用は、米ドル建てで前年同期比 19% 減少しましたが、これは、従業員報酬以外の固定費用（旅費・交際費および専門的なサービスフィーの減少）と仲介および手数料費用の減少の組み合わせによるものです。従業員報酬関連経費 29 億 CHF には、前年同期の報酬裁定の権利付与（「パートナー・アセット・ファシリティ」プランからのものを含む）および同事業部門のリスク調整後の収益力の改善を反映した）2009 年の未払い業績連動報酬が含まれています。

同部門の戦略目的に添い、2009 年第 1 四半期中に、リスク資本の活用を総合的に減らしました。評価方法の変更の影響を除き、米ドル建てのリスク性の高い原資産は、2008 年第 4 四半期末に比べ 11% 減少した一方、一日平均リスク価値は同期中に 14% 下落しました。

インベストメント・バンキング部門における正味評価額調整とエクスポージャー

クレディ・スイスは、2009 年第 1 四半期全体を通じ、時価会計に対して一貫性のある厳格なアプローチを採用し、14 億 CHF の商業用モーゲージ担保証券（CMBS）正味減価償却を行いました。クレディ・スイスは米国財務企業会計審議会（FASB）が 2009 年 4 月に発表した時価に関する新しい会計指針の早期採用を見合わせました。これらの新規会計基準は 2009 年第 2 四半期に採用する予定ですが、その結果が時価に大きな影響を与えることはない見込みです。

正味評価額調整

(単位：百万 CHF)	2009 年	2008 年	2008 年
	第 1 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期
レバレッジド・ファイナンス	50	(889)	(1,681)
CMBS	(1,401)	(989)	(848)
RMBS およびサブプライム CDO	413	(1,314)	(2,752)
合計	(938)	(3,192)	(5,281)

開示資産残高

(単位：十億 CHF)	2009 年	2008 年	2008 年	2008 年第 4	2008 年第 1
	第 1 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期	四半期からの増減率 (%)	四半期からの増減率 (%)
レバレッジド・ファイナンス	0.7	0.9	20.8	(22)	(97)
商業用モーゲージ	7.0	8.8	19.3	(20)	(64)
住宅用モーゲージおよびサブプライム CDO	2.7	5.1	7.4	(47)	(64)

アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の 2009 年第 1 四半期の損益は税引前ベースで 4 億 9,000 万 CHF の純損失（前年同期は 5 億 4,400 万 CHF の税引前損失）となりました。これは、主にプライベート・エクイティの持分などの未実現投資関連損失 3 億 8,700 万 CHF（前年同期は 900 万 CHF の損失）および当社マネー・マーケット・ファンド取得有価証券の評価損 2,100 万 CHF（前年同期は 5 億 6,600 万 CHF）によるものです。当四半期の純営業収益は 600 万 CHF で前

年同期を 5,200 万 CHF 上回りました。当社マネー・マーケット・ファンド取得有価証券および投資関連利益／損失を除いた場合の純営業収益は 1 億 1,500 万 CHF 減の 4 億 1,400 万 CHF となります。総営業費用は安定的に推移しました。

部門別業績

単位：百万 CHF		2009 年 第 1 四半期	2008 年 第 4 四半期	2008 年 第 1 四半期	2008 年第 4 四半期からの 増減率 (%)	2008 年第 1 四半期からの 増減率 (%)
プライベート・ バンキング	純営業収益	2,878	3,139	3,355	(8)	(14)
	貸倒引当金繰入額	47	130	(5)	(64)	-
	総営業費用	1,839	2,492	2,036	(26)	(10)
	税引前利益	992	517	1,324	92	(25)
インベストメント・ バンキング	純営業収益	6,442	(4,618)	(503)	-	-
	貸倒引当金繰入額	136	355	155	(62)	(12)
	総営業費用	3,892	2,487	2,765	56	41
	税引前利益 (損失)	2,414	(7,460)	(3,423)	-	-
アセット・ マネジメント	純営業収益	6	(356)	(46)	-	-
	貸倒引当金繰入額	0	0	0	-	-
	総営業費用	496	300	498	65	0
	税引前利益 (損失)	(490)	(656)	(544)	(25)	(10)

新規純資産

プライベート・バンキング部門が 2009 年第 1 四半期に得た新規純資産 114 億 CHF のうち、ウェルス・マネジメントの獲得分は 90 億 CHF でした。これは向こう 4 四半期換算平均成長率で 5.0% に相当し、欧州・中東・アフリカ地域、アジア太平洋地域、スイス国内から多くの流入がありました。コーポレート&リテール・バンキングが 2009 年第 1 四半期に得た新規純資産 24 億 CHF は、主に法人顧客からの流入ですが、個人顧客からの良好な流入も反映されています。アセット・マネジメント部門は、2009 年第 1 四半期に 35 億 CHF の純資産流出がありました。アセット・マネジメント部門のオルタナティブ投資事業は 10 億 CHF の新規純資産流入があり、同事業の強みが確認されました。クレディ・スイス・グループ全体の継続事業からの運用資産総額は 2009 年 3 月 31 日現在 1 兆 1,217 億 CHF で、2008 年 12 月 31 日現在の実績を 1.4% 上回りました。これは主にプライベート・バンキング部門への新規純資産および外国為替動向が有利に推移したためですが、一部は不利な市場動向およびアセット・マネジメント部門の純資産流出によって相殺されました。

統合事業モデルの利点

クレディ・スイスは 2009 年第 1 四半期に事業部門をまたがる事業活動から 10 億 CHF (前年同期は 12 億 CHF) の営業収益を得ました。

資本および流動性管理

クレディ・スイスの資本基盤は引き続き強固です。2009 年第 1 四半期末現在の第 1 分類資本比率は 14.1% で、2008 年第 4 四半期末現在の 13.3% を上回りました。クレディ・スイスは、引き続き良好な流動性を確保しており、2009 年 7 月に償還予定の上位第 2 分類特約条項付社債 2 本 (クレディ・スイス・ガーンジー・ユーロ債 1 億 2,500 万ユーロおよびクレディ・スイス・ロンドン・英ポンド債 1 億 5,000 万ポンド) を償還する予定です。

人事異動

クレディ・スイスは、本日、現在クレディ・スイス・グループの最高リスク責任者およびエグゼクティブ・ボード・メンバーであるトビアス・グルディマンを、2009年6月1日付でエグゼクティブ・ボードの単独リスク責任者に任命すると発表しました。同日付で、現在クレディ・スイスの最高リスク責任者であるウィルソン・アービンはエグゼクティブ・ボード・メンバーを退任し、新設ポストであるドゥーガン直属の上席顧問に就任します。アービンおよびグルディマンは過去10年間にわたりクレディ・スイスのリスク管理戦略の構築において緊密に協力し、また最近では引継ぎの計画を共に進めてきました。

本件に関するお問い合わせ先

コーポレート・コミュニケーションズ

梶野 勇

Tel : 03-4550-9893

Email : isamu.kajino@credit-suisse.com

クレディ・スイスについて

クレディ・スイスは、世界有数の銀行として、プライベート・バンキング、インベストメント・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開し、アドバイザー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイスは、世界50ヶ国以上に拠点をもち、約46,700人の従業員を有しています。クレディ・スイスは世界各地にある複数の事業法人で構成され、本拠地はチューリッヒにあります。親会社クレディ・スイス・グループ AG の株式 (CSGN) はスイスで上場され、米国預託証券 (CS) としてニューヨークでも上場しています。

Cautionary statement regarding forward-looking information and non-GAAP information

This press release contains statements that constitute forward-looking statements within the meaning of the Private Securities Litigation Reform Act. In addition, in the future we, and others on our behalf, may make statements that constitute forward-looking statements. Such forward-looking statements may include, without limitation, statements relating to the following:

- our plans, objectives or goals;
- our future economic performance or prospects;
- the potential effect on our future performance of certain contingencies; and
- assumptions underlying any such statements.

Words such as “believes,” “anticipates,” “expects,” “intends” and “plans” and similar expressions are intended to identify forward-looking statements but are not the exclusive means of identifying such statements. We do not intend to update these forward-looking statements except as may be required by applicable securities laws. By their very nature, forward-looking statements involve inherent risks and uncertainties, both general and specific, and risks exist that predictions, forecasts, projections and other outcomes described or implied in forward-looking statements will not be achieved. We caution you that a number of important factors could cause results to differ materially from the plans, objectives, expectations, estimates and intentions expressed in such forward-looking statements. These factors include:

- the ability to maintain sufficient liquidity and access capital markets;
- market and interest rate fluctuations;
- the strength of the global economy in general and the strength of the economies of the countries in which we conduct our operations, in particular the risk of a continued US or global economic downturn in 2009 and beyond;
- the direct and indirect impacts of continuing deterioration of subprime and other real estate markets;
- further adverse rating actions by credit rating agencies in respect of structured credit products or other credit-related exposures or of monoline insurers;
- the ability of counterparties to meet their obligations to us;
- the effects of, and changes in, fiscal, monetary, trade and tax policies, and currency fluctuations;
- political and social developments, including war, civil unrest or terrorist activity;
- the possibility of foreign exchange controls, expropriation, nationalization or confiscation of assets in countries in which we conduct our operations;
- operational factors such as systems failure, human error, or the failure to implement procedures properly;
- actions taken by regulators with respect to our business and practices in one or more of the countries in which we conduct our operations;
- the effects of changes in laws, regulations or accounting policies or practices;
- competition in geographic and business areas in which we conduct our operations;
- the ability to retain and recruit qualified personnel;
- the ability to maintain our reputation and promote our brand;
- the ability to increase market share and control expenses;
- technological changes;
- the timely development and acceptance of our new products and services and the perceived overall value of these products and services by users;
- acquisitions, including the ability to integrate acquired businesses successfully, and divestitures, including the ability to sell non-core assets;
- the adverse resolution of litigation and other contingencies;
- the ability to achieve our cost efficiency goals and other cost targets; and
- our success at managing the risks involved in the foregoing.

We caution you that the foregoing list of important factors is not exclusive. When evaluating forward-looking statements, you should carefully consider the foregoing factors and other uncertainties and events, as well as the information set forth in our Form 20-F Item 3 – Key Information – Risk Factors.

This press release contains non-GAAP financial information. Information needed to reconcile such non-GAAP financial information to the most directly comparable measures under GAAP can be found in the Credit Suisse Financial Report 1Q09.